

早生樹の植栽試験地とニホンジカ被害対策の現地視察を行いました

令和6年11月7日(木)に、宮城県石巻市の国有林で令和6年度村山地域民有林・国有林連携推進会議の現地視察を行いました。この会議は、山形県村山地域に所在する県・国の林務関係組織である山形県村山総合支庁森林整備課(以下、整備課)、山形県森林研究研修センターと当署が参集し情報交換を行うものです。今年度は初の試みとして現地視察を行い、整備課の4名と当署の5名の計9名が参加して①早生樹の植栽試験地と、②ニホンジカ被害対策の最前線を視察しました。

①早生樹は中国原産の針葉樹コウヨウザンで、萌芽(※)力が強く初期成長が良いのでニホンジカの食害の影響を比較的受けにくいこと、木材としても早期に利用できるのではないかと期待されます。

現地では、同時に植栽したスギよりも樹高が伸びているほか、枝も伸びて根元からの萌芽が旺盛である様子が観察できました。参加者からは苗木の生産地はどこか、獣害の有無は、といった多くの質問があり、新しい樹種に対する関心の高さがうかがえました。

※萌芽(ほうが)とは草木が芽生えること。ここでは立木の根元や伐採後の切株から新たな芽が出ることを指す

②次に、シカ被害対策についてです。山形県内のシカ被害は未だ軽微であるものの、宮城県をはじめ太平洋側の各県では、ニホンジカが森林の下層植生を食害することによる森林土壌の荒廃、比較的幼齢の天然木や造林木を食害することによる枯損等の被害が深刻です。そこで当日は、今後の参考とするため、宮城県内国有林の防鹿柵を設置した造林地を見ながら現地検討しました。隣接する林分は食害により下層植生が綺麗さっぱり失われて土壌が剥き出しになっていましたが、柵の内部では幼齢造林木は無事、草木等も繁茂したままになっており、柵を設置することの効果を実感しました。同時に、ここまで対策を施さなければならない程の被害の現状を目の当たりにして、ニホンジカの被害と対策への認識を新たにしました。

